

橋本絵莉子波多野裕文

旅について

波多野裕文

旅に出る機会を、いつも臆々と狙っている。

十代の頃に衝動的に初めてひとり旅をした。それ以来、もしかすると部屋にいるぼんやりしている自分よりも、旅をしている方の自分が本当の自分に近いのではないかと、どこかで疑っている。感懐の話。

数年に渡って、海外旅行によく行っていった時期があった。行ったことのない国へ行き、見慣れない街へ行き、初めてのものにふれる。

どの土地にもその土地の匂いがある。鼻が特に効く方ではないけれど、街に降り立ってまずはじめに旅の実感を得るのは、視覚情報よりもまず先に匂いかもしれない。異国の言葉は日本のそれよりも意味として認識しないからか、少し高いところを飛び回り、やかまし

く、心地よ

街に出て、いわゆる観光地になんとなく飽きてくると、その辺りから少しだけ外れた路地をおそるおそる歩く。ふわっと空気が変わる瞬間があって、少し宙に浮いた感じがする。街が旅行者に優しいよそいきの顔をやる、見えな

境異線をまたぐ瞬間だ。そこには生垣、壁、電柱、看板、建物がある。猫が歩き、老人が日光浴をしている。虫の柱が立ち、テレビの音が漏れ聞こえる。遠く

の大通りの車の走行音が聞こえる。木々の隙間から海が陽光をはね返して輝いている。

そのほとんどは、僕の生まれ育った街にもあるものだ。けれど、僕の知っているそれと全然違う。アスファルトの踏み心地も、壁の色彩の濃淡も、空気の層の厚さのせいで太陽の輝きも、これまで見てきたものとは違う。初めて見る虫もいれば、猫の態度もおかしく、唐突な看板の色味は狼狽に鮮やかで、格調高く色褪せている。

そこに少し間抜けな顔をしてたはずの僕は、部屋にいるときとは随分と違う人間になっている。何がどう違うか、うまく説明するのはとても難しい。これまでは住み慣れた部屋の一部として、まるで多量の砂鉄がまわりついた磁石のように身の回りの雑多なものに切り離し難く存在し、風船のように膨らんでぼんやりと存在していた自分から一転、体の輪郭が以前よりもはっきり、くっきりしているような感覚になる。少し心許ないけれど、自分を発見し直すようなその感覚が好きで、僕は旅行にいくと行っても過言ではない。それまで知っていた世界から切り離されたか、自分がどんなことを考えているのか、無意識にどんな行動をとろうとするのか、そういう自分を他人事のように観察するのがとても楽しい。

日本にいるときには特に気にも留めていなかったことが気になり

出したり、何気なく口ずさんだ歌がいつもなら記憶の隅から引っ張り出してこないと思つたら、それなら珍らしい曲だったりする。疎遠にしている人を思い出したり、昔読んで忘れていた本の内容を思い出したりする。

演奏を含んだ国内の旅は、またそれは少し違う感覚になる。

離れた別の都市で、数日に渡って毎晩同じ曲を演奏していると、音楽の変わらなさがあって環境の違いを浮き彫りにするような、そんな気分になる。以前は演奏のことだけで頭がいっぱいで、その街々の表面しか見えていなかったけれど、ここ数年は、外国のわかりやすい刺激とは全く違う、微かな匂いや肌に触れる空気の違いがよくわかるようになった。見慣れた風景でも土地土地の成り立ち、ひとつとして同じものはない。そこに住む生活がぼんやりとイメージ

できてしまつたこの、胸を締めつけるような感覚はとても好きた。もしかすると自分がそこで生まれ育っていたかもしれないという可能性。

昔は同じ曲を何度も演奏するのは返屈だと思っていた。でも街がいつも違う姿を目の前に表すことに気づいた頃から、毎晩同じ歌を歌うということに喜びを感じるようになった。街は違っても歌は変わらないこと。聴こえ方が違っても、それが同じ歌であるというシンプルな事実が凄くいいと思う。

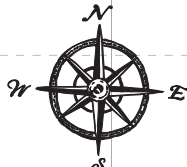
今年の春に、十年住んだ東京を離れた。東京は相変わらず好きな都市で、なぜ離れたのかと誰かに訊かれるたびに、言葉に詰まる。小さな断片のような理由はたくさんあるはずだけれど、それを列挙したところで、むしろ核心から外れていくような気がする。

移り住んだ先で、僕は東京にいるときと、ほとんど同じような生活を送っている。つまり部屋に籠って音楽を作り、時々散歩に出かけるというだけの生活。けれど、僕の頭のなかから出てくるものは、すでに以前と違う。僕自身は全く変わっていない。変わったのは僕が

世界を眺めるときにのぞく望遠鏡(もしかすると顕微鏡)のレンズの倍率だ。そうやって解像度が変われば、これまでに見ていたのと同じものを見ても、まるで違うものを見ているような気持ちになる。まるで、外国に行ったときと同じような、自分の輪郭が定まったような感覚。

もしかすると、単純にまた違う類の、旅行の気分なのかもしれない。僕はただ十年、東京に滞在していただけだったのかもしれない。そう考えると、また過去の景色さえ違って見える。自分の行き先を自分で決める。それができている限り、僕はハッピーでいられると思つた。旅行は続いている。

波多野裕文



本子野文 莉多 橋絵波裕

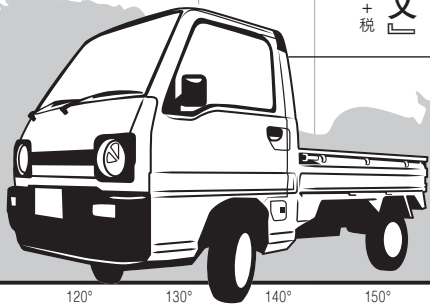
ファーストアルバム

『橋本絵莉子波多野裕文』

KSCL 2950 ¥2,800+税

〈収録曲〉

1. 作り方 [1:24]
2. 飛翔 [5:00]
3. 幸男 [5:24]
4. ノウハウ [3:44]
5. トークトーク [4:20]
6. 流行語大賞 [3:25]
7. アメリカンヴィンテージ [6:10]
8. 君サイドから [5:34]
9. 臨時ダイヤ [5:11]



1st Album 発売中

www.yabaiojis.com

KYOCERA
NOT FOR SALE